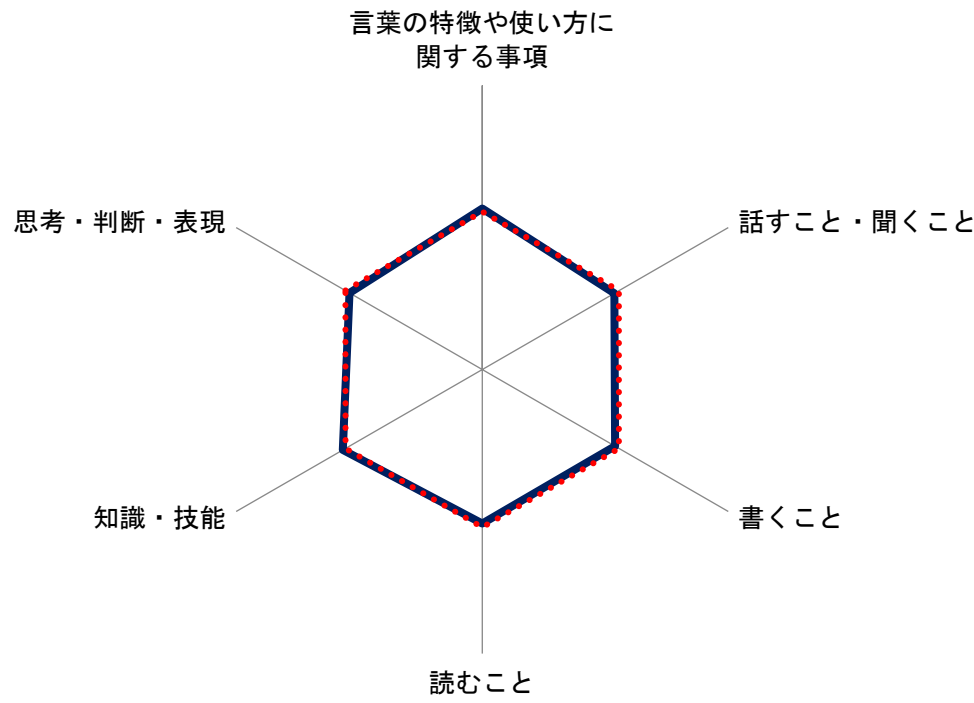


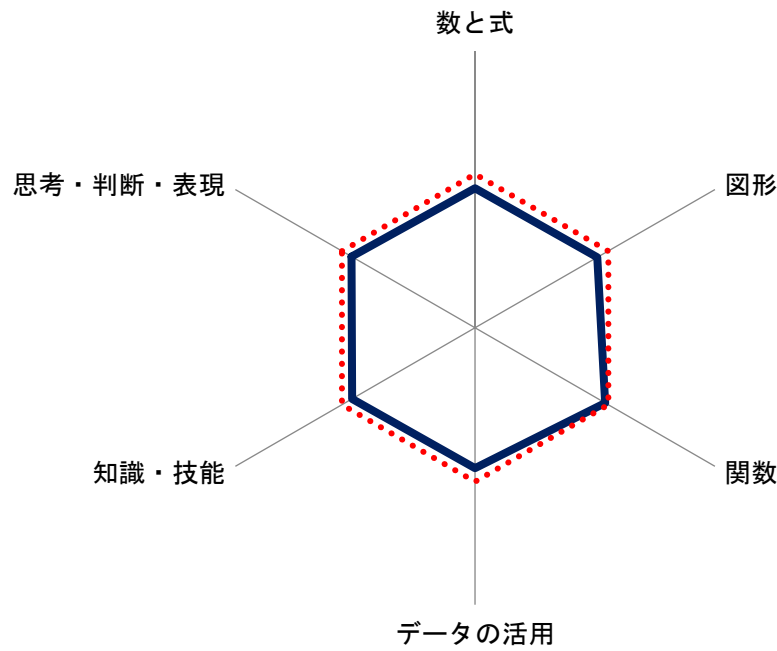
○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

【国語】

— 県平均
..... 全国平均



【数学】

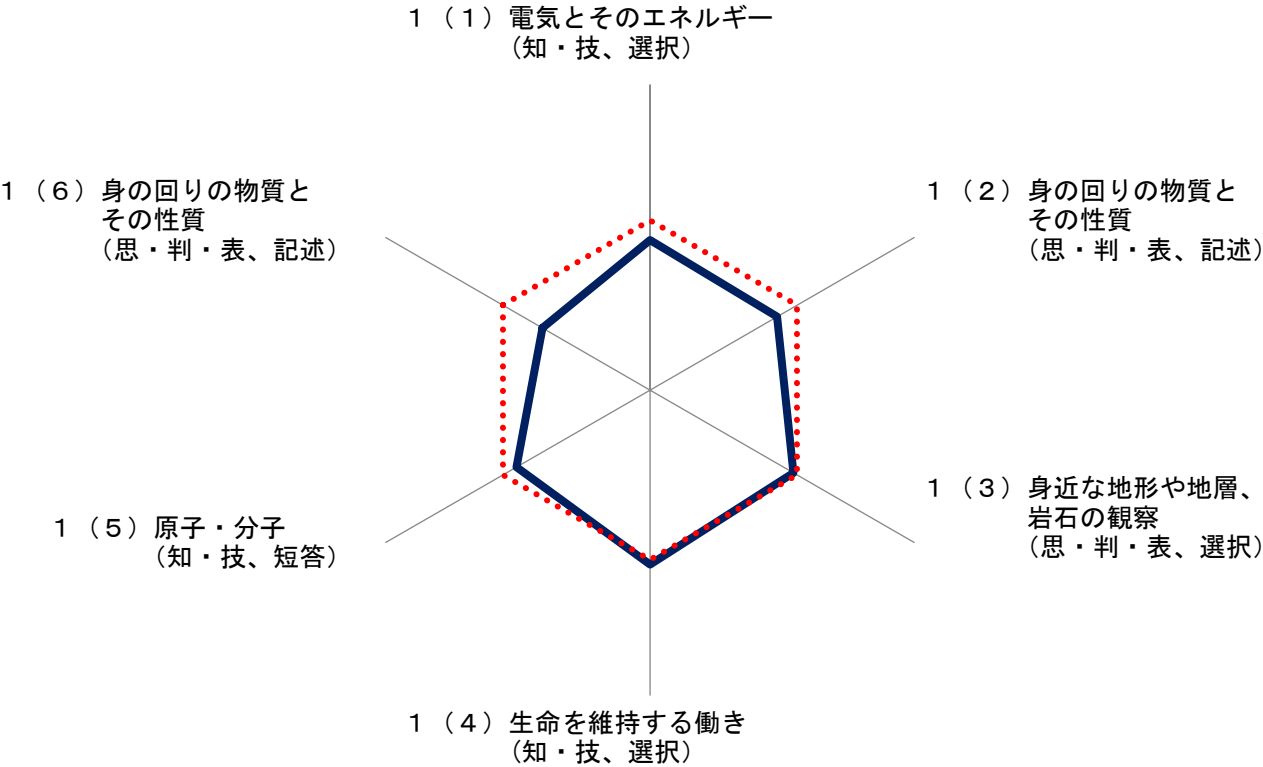


○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

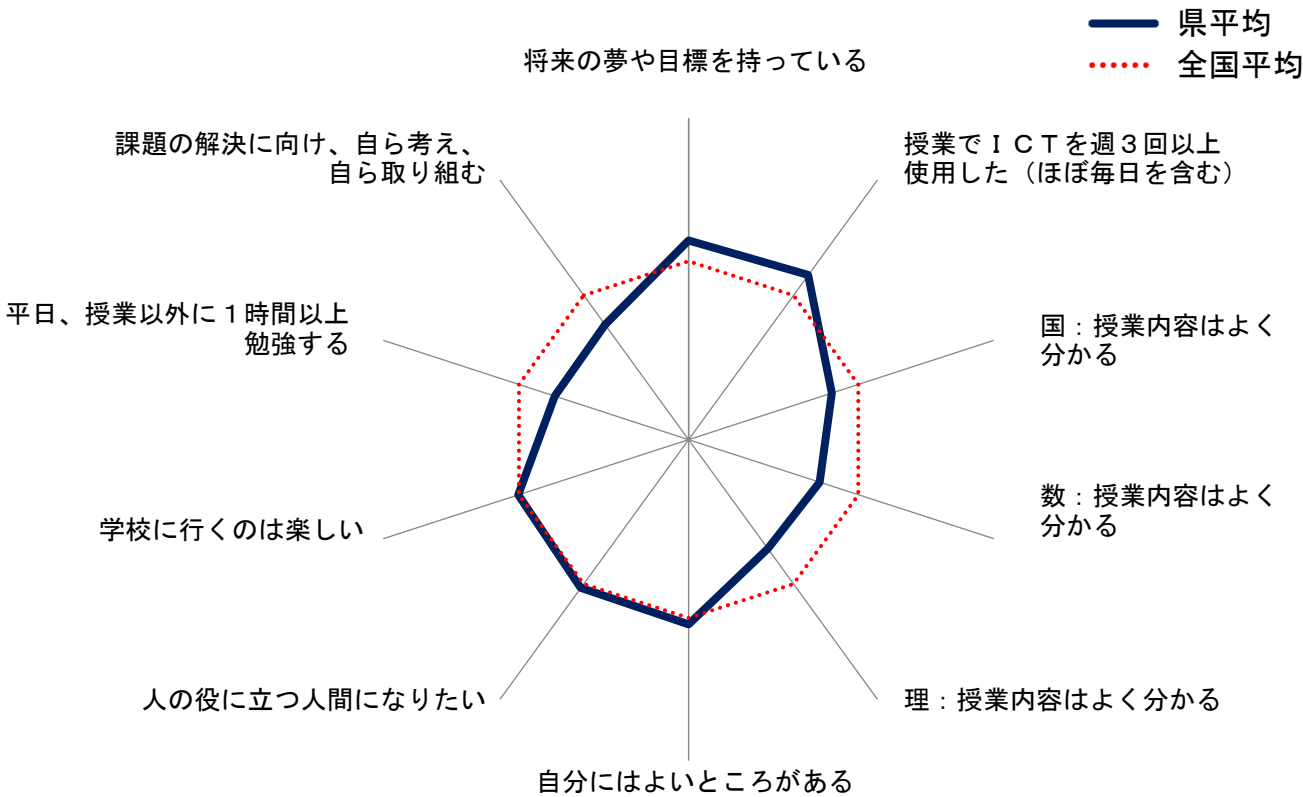
【理科】

※全ての生徒が解答した共通公開問題(6問)について、問題ごとに
全国の平均正答率と県や市町の平均正答率との差を比較したもの

— 県平均
..... 全国平均



○ 生徒質問調査 (全国の平均回答率との差：肯定的な回答)



○ 結果の分析と改善策

教科に関する調査では、国語は「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「知識・技能」の項目に改善が見られ、全ての項目で全国平均と同程度の結果になっている。一方、数学の全ての項目と理科の公開問題のほとんどが全国平均を下回っており、特に理科の1 (6) の問題は、他の問題と比べて全国平均との差が大きく、学習の振り返りにおいて新たな問題や身近な生活との関連について整理し表現することに課題が見られる。今後も、学力の定着と向上に向けて、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を継続するとともに、生徒にとって身近な事象について資料を活用して説明する活動や、学習を振り返りながら考えを深めるための追究・検証を行う活動の充実を図る必要がある。

生徒質問調査では、「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」「自分にはよいところがある」の項目が昨年度に続き全国平均を上回る状態を維持しており、継続してキャリア教育の充実に注力してきた成果であると考えられる。一方、数学や理科の「授業内容はよく分かる」「課題の解決に向け、自ら考え、自ら取り組む」「平日、授業以外に1時間以上勉強する」の項目は全国平均を大きく下回っており、引き続き課題である。今後は、生徒自らが問いを立て見通しを持って取り組む探究的な学習を重視するとともに、情報の収集・整理や発表資料の作成等においてICTを効果的に活用し、生徒自身が「分かる」「できる」と実感できる授業づくりを進めていく必要がある。